

# 皆さんの安心を支える国保

そして、国保を支えているのは皆さんの保険料です。

## 国保はみんなで支え合う制度です

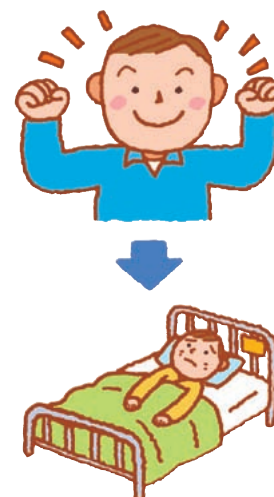
国保は、職場の健康保険に加入していない方や後期高齢者医療制度に移行されていない方などを対象に、加入者の皆さんに保険料を納めていただきながら、病気やけがをして、お医者さんに掛かったときに、医療費の一部を国保が負担し、皆さんの自己負担分を軽くする制度です。

「自分は健康だし、病院に行かないから関係ない。」と考える方がいるかもしれませんが、どのような方でもいつ大きな病気やけがをするか分かりません。

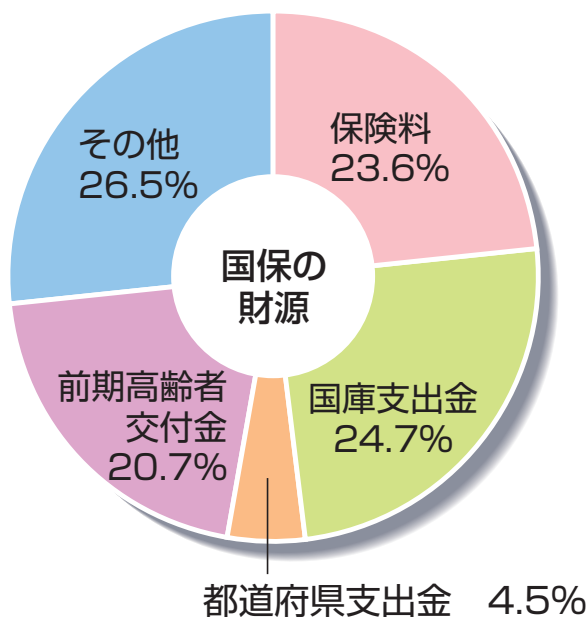
そのために健康な方にも収入に応じた保険料を納めていただきながら、国保を支えていただく代わりに、自分が大きな病気やけがをしたときには支えてもらうというのが国保の趣旨です。

保険料を納めない方がいると、この全体の仕組みが機能しなくなります。

保険料を納めるということは、自分だけでなくみんなが安心して暮らせるために必要なのです。



## 保険料は国保の大切な財源です



(資料/「国民健康保険の実態」平成22年度版)

国保はグラフのとおり、国の支出金や他の医療保険からの交付金などの財源と、加入者の皆さんが納める保険料で運営されています。保険料はそのうち23.6%を占め、国保の運営に欠かせない財源となっています。



※前期高齢者交付金

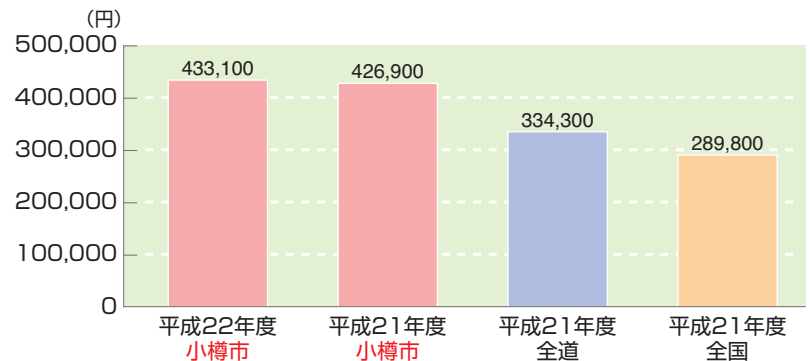
65～74歳の方の医療費を他の医療保険（健康保険や共済組合など）との間で負担調整するための制度で、この年齢の加入者が多い国保は交付金が交付されます。

# 小樽市の国保医療費の現状

## 小樽市の1人当たりの医療費は全国平均の1.5倍！

小樽市の国保加入者1人当たりの年間医療費は、平成21年度で42万6,900円となっており、全国平均の約1.5倍となっています。

■国保加入者1人当たりの年間医療費



(各年度の医療費は、各年3月診療分～翌年2月診療分の合計です。)

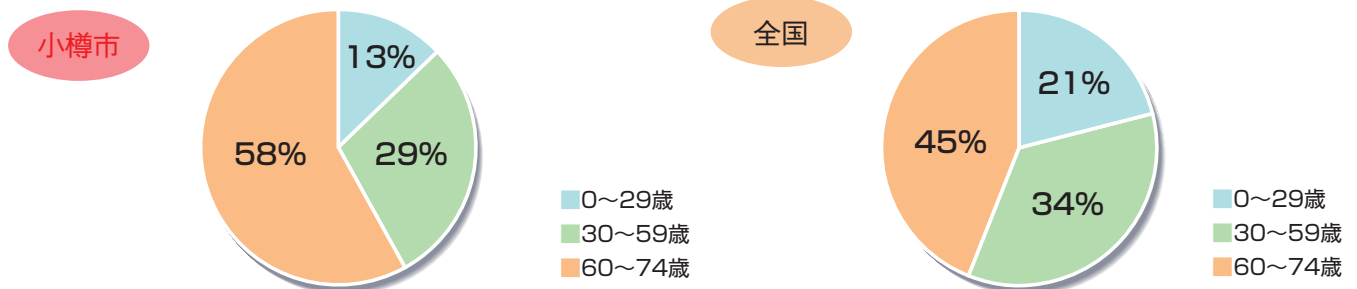
## 小樽市の医療費が高いのはどうして？

### 1 国保加入者に高齢者が多い

私たちは、加齢とともに医療機関に掛かる機会が多くなり、医療費が増加する傾向にあります。

小樽市では、60歳以上の国保加入者の割合が高く、平成21年度では全体の58%を占めており、全国の45%と比較すると約1.3倍となっています。

■加入者の年齢構成割合 (平成21年度)



### 2 長期入院患者が多い

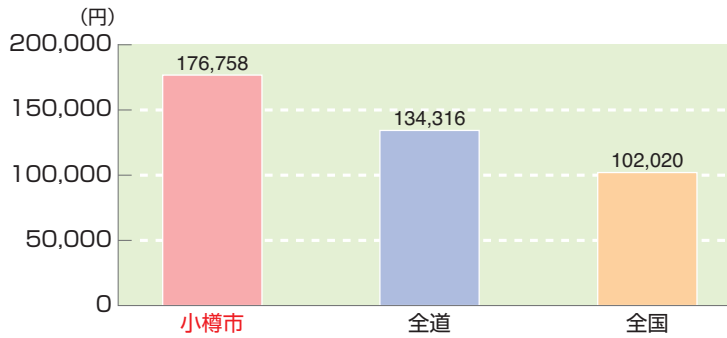
①小樽市の国保加入者の入院期間別割合は、6か月以上の長期入院患者が全体の14%を占めており、全道の10%と比較すると1.4倍となっています。

■入院期間別割合 (平成22年度)



②長期入院患者が多いことが1人当たりの入院医療費を押し上げる要因となっており、全国の10万2,020円と比較すると約1.7倍となっています。

■ 1人当たり入院医療費（平成21年度）



**受診の仕方を工夫し、効率よく医療を受ければ、医療費を節約することができます！**

保険料は、原則としてその年の予測される医療費を基に決定されます。医療費が増えれば、保険料の値上げという形で私たち自身に跳ね返ってきます。医療費をこれ以上増やさないためにも、日頃からの健康づくりを心掛けましょう。

**診察の受け方も大切**

適切な治療を受けるため、症状は隠さず正直に伝えましょう。また、医師の指示はきちんと守りましょう。

**掛かりつけ医を持とう**

大病院は高度な検査や医療が必要な方のための病院です。まずは地元の信頼できる掛かりつけ医へ行くことを、お勧めします。

**病院はむやみに変えないで**

病院を変えるごとに初診料が掛かり、同じような検査を繰り返し、似たような薬を二重、三重にもらうのは、医療費の無駄遣いだけでなく、健康障害をも引き起こします。

**紹介状をもらおう**

紹介状（診療情報提供書）無しで大病院に行くと、診療費とは別に特別料金が請求されます。

**ジェネリック医薬品（後発医薬品）を利用**

有効成分や効果は同じでも、新薬から切り替えれば薬代が約半分になります。変更すれば、自己負担も減って、薬代の節約につながります。

**治療より予防**

病気にならなければ医療費は掛かりません。日頃の生活習慣を見直し、改善していきましょう。

**定期的に健診を受けよう**

病気を早期発見できれば、その分治療も早く終わり、医療費の節約になります。

P18~19

P20~21

P6~17

# 小樽市の国保財政と医療費適正化推進計画

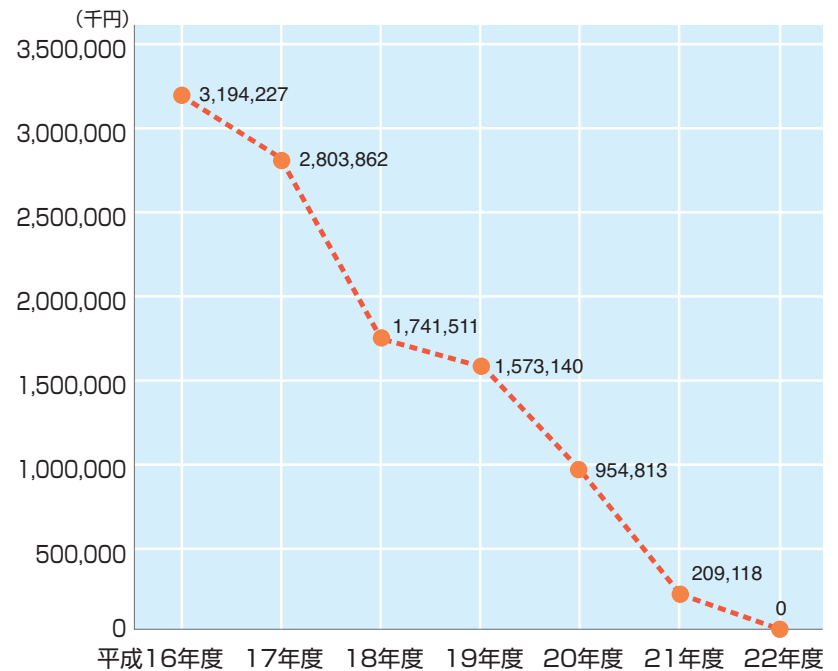
## 国保の累積赤字額の推移

小樽市国保の保険料は、長い間、本来の必要額より少ない額となっていたため、昭和59年度から赤字が発生し、累積赤字額はピークの平成13・14年度には、約33億9千万円となっていました。

その後は、老人医療制度の改正や後期高齢者医療制度の創設、市町村間の負担格差に伴う財政力の不均衡を調整する制度の充実が図られ、さらには市としてもレセプト点検や各種保健事業の推進による医療費適正化に取り組んできたことなどにより、平成22年度末で累積赤字は解消されています。

しかし、加入者の高齢化や医療技術の高度化に伴う医療費の増加により、今後も厳しい財政状況が続くものと見込まれます。

■ 累積赤字額

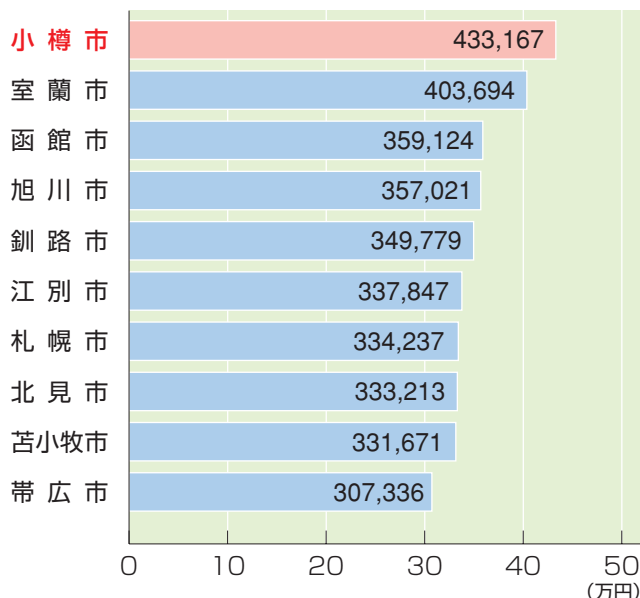


## 道内主要都市の医療費と保険料の状況

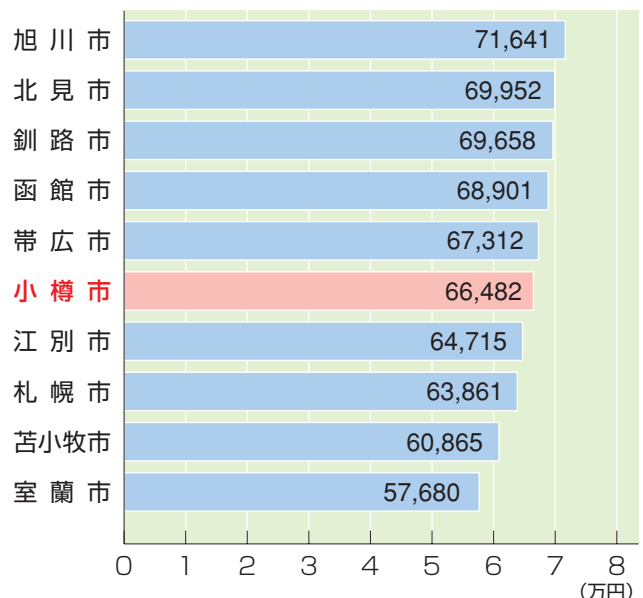
平成22年度の道内主要都市の医療費と保険料（医療分）を比較すると、小樽市は1人当たりの医療費が43万3,167円と一番高い半面、1人当たりの保険料（医療分）は6万6,482円で6番目となっています。

■ 1人当たりの医療費及び保険料（平成22年度）

1人当たりの医療費



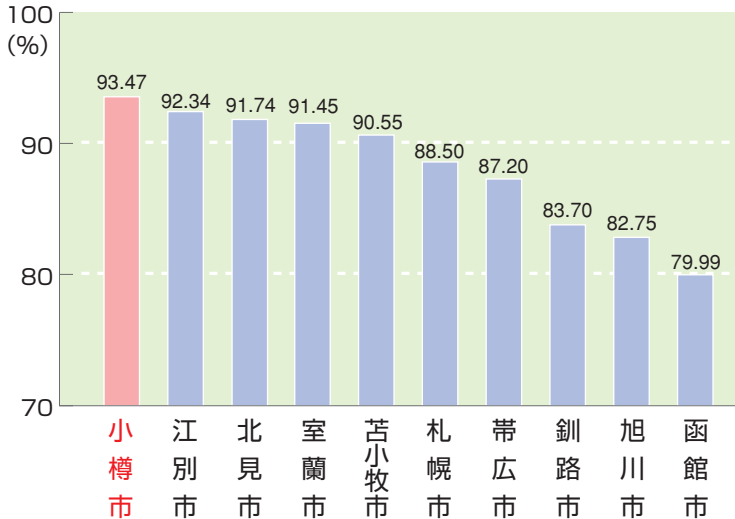
1人当たりの保険料（医療分）



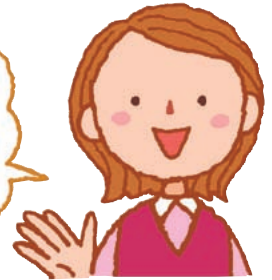
## 国保の収納率は全体で 93.47%

保険料の収納は、国民健康保険の財政に大きな影響を持つだけでなく、保険制度の根幹に関わるものであり、各市町村も収納率の向上に力を入れて取り組んでいます。小樽市では、納入遅延者への早期対応や口座振替の利用促進及び特別徴収員による訪問などを積極的に実施しており、平成22年度における道内主要都市の中では一番高い収納率となっています。また、このことは小樽市の保険料が高くなることを抑えている要因の一つとなっています。

### ■平成22年度国民健康保険料収納率（現年度分）



道内主要都市  
の中では第1位の  
収納率です



## 医療費適正化推進計画

小樽市の国保医療費は、全国平均に比べて著しく高いので、北海道から高医療費市町村に選定されています。

このため、国保事業の運営に関する「医療費適正化推進計画」を立て、保健事業の推進や医療費適正化のための対策に積極的に取り組んでいます。

### 保健事業の推進

- 特定健康診査・特定保健指導
- 健康教育
- 健康相談・訪問指導
- 健康セミナーの開催

### 広報活動の推進

- 小冊子、パンフレットの発行
- 国保ホームページ

### 関係部局との連携

- 保健所
- 地域福祉課
- 介護保険課
- 保険収納課

### 医療費の適正化

- レセプト点検
- 医療費通知

### 保険料の収納率の向上

- 口座振替の利用促進
- 特別徴収員による訪問